

ホケンダイつきいちゼミ(2026年3月号)



Q.研究テーマを教えてください。



私は、文化的背景の異なる人々が安心して医療を受けられることが大切だと考え、看護学におけるcultural competenceの概念分析、在日外国人患者の異文化体験の解明、海外看護学生の国際性志向の調査、さらに外国人模擬患者を用いた教育実践を通して、共生社会に求められる国際看護教育と看護実践のあり方を探究しています。



Q.お名前と今の仕事の内容を教えてください。



青森県立保健大学 看護学科 基礎看護学領域で准教授をしている久保宣子です。看護技術や国際看護を担当しています。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年3月号)



Q. どうしてその研究をしようと思ったのですか。



日本国内の外国人の増加により、看護現場では異文化対応が日常となりました。しかし文化の違いによる戸惑いや不安は多く、必要な看護能力や患者側の困難は十分に整理されていません。共生社会に不可欠な医療を考えるため、本研究を志しました。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年3月号)



Q.それはどんな研究ですか。



文献によるcultural competenceの概念分析、入院経験のある外国人へのインタビュー調査、そして将来日本で働く可能性のある海外看護学生への意識調査を行い、多面的に検討しています。



Q.どんな成果が得られていますか。



cultural competenceは固定的な能力ではなく、学び続けるプロセスであることを示しました。また外国人患者は、日本では当たり前とされる対応に精神的苦痛を感じており、潜在的な文化への配慮が医療の質向上に重要であると分かりました。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年3月号)



Q.この結果をどんな人にどのように活用したいですか。



医療従事者の教育に活用したいと考えています。看護基礎教育にも取り入れ、学生のうちから異文化を学ぶ姿勢を育てることで、公正で柔軟な看護実践につなげたいと考えています。



Q.皆さんにメッセージをお願いします。



異文化を知ることは、相手を理解するだけでなく、自分の当たり前を見直す機会でもあります。多様性を尊重し、対話を重ねることで、違いは壁ではなく力になります。誰もが安心して暮らせる社会を共に創っていきましょう。

ホケンダイつきいちゼミ(2026年3月号)



最後に、研究のことをもっと知りたい！大学院のことをもっと知りたい！場合は、どちらにコンタクトすればいいですか？



看護学科 基礎看護学領域 久保宣子
メールアドレス: n_kubo@ms.auhw.ac.jp



久保先生、ありがとうございました。
保健大学では、毎月、その年のテーマに沿って、
情報を発信していきます！！